

高知県の貝類に詳しい三本健二さんによれば，1981年にはすでにこの貝が浦戸湾で大繁殖していたようです．

イガイ科の多くは足糸で石や岩盤に付着します．同時に，個体が密集して大きな塊状になります．この様子をイガイ類のベッドと呼んでいます．特に，岩盤のすき間を中心に，イガイ類の集団が広がっている様子はよく観察されます．



コウロエンカワヒバリガイ，2003年
6月14日灘で採集．



ムラサキインコ，2003年5月16日
土佐市宇佐町井尻で採集．

コウロエンカワヒバリガイは塩分濃度が低い，おだやかな内湾に生息します．土佐湾沿岸の波が直接当たる岩やコンクリート壁には，同じイガイ科のムラサキインコが大集団を形成します．前者は殻長4 cmほど，後者は3 cmほどですが，後者の殻がはるかに丈夫です．両種とも固着性で，海水中のプランクトンを餌とする同じ生活様式です．このように生物の種はすみわけているのですが，その要因，特に物理・化学的要因と種の分布の解明は相当に困難です．

浦戸湾では，コウロエンカワヒバリガイが大量に死滅している様子もよく観察されます．その原因はよく分かりませんが，大量の死滅が水質と底質の悪化を招いているのは間違いないでしょう．

2004年7月28日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します．複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします．